

ぎかい



2018.10.17

小国町議会だより 第**138**号



一投入魂

表紙関連記事は16ページ

平成29年度 決算を認定

3～5ページ

主な内容

- 4～ 5ページ 決算審査
質疑応答
- 6～11ページ 町の考えを問う
一般質問5名
- 12～13ページ 小国高校生と語る

一般会計補正額3億6752万円 「道の駅」用地取得費など

9月
定例会



新しい直売所整備が予定されている

定例会のあらまし

9月定例会は、9月5日(水)より14日(金)までの10日間の日程で開かれた。平成29年度各会計決算、平成30年度各会計補正予算、契約の締結、人事など25件が審議され原案のとおり可決した。請願は、1件提出され継続審査となった。なお、継続審査中の請願1件は、願意妥当で採択され、意見書を提出した。一般質問は、5名の議員が行い、当面する諸問題を町長に質問した。

人事

教育長(再任)
遠藤啓司氏(大宮)
任期…平成30年10月15日
平成33年10月14日

教育委員(新任)
伊藤優子氏(北)
任期…平成30年10月1日
平成34年9月30日

その他 主な補正

- ◆農業経営トップランナー育成支援事業 550万円
- ◆町道維持補修・除排雪等委託料 7770万円
- ◆除雪対策基金積立金 1億円
- ◆下水道事業特別会計繰り出し金 1270万円
- ◆道の駅整備等用地購入 3047万円



黒沢橋旧橋解体工事請負契約



温水プール解体工事

請願

種子法廃止に伴う万全の対策を求める請願
(6月定例会継続審査)
(要旨)

主要農作物種子法が廃止されたことにより、試験場等の取り組みが後退しないよう予算の確保等を行うこと、また、地域の共有財産である「種子」を民間に委ねないよう対策を講じること。

請願者

置賜農民連会長

小林茂樹(南陽市)

小国町農民連

本間義信(小国町)

付託委員会

文教産建常任委員会

委員会の結果

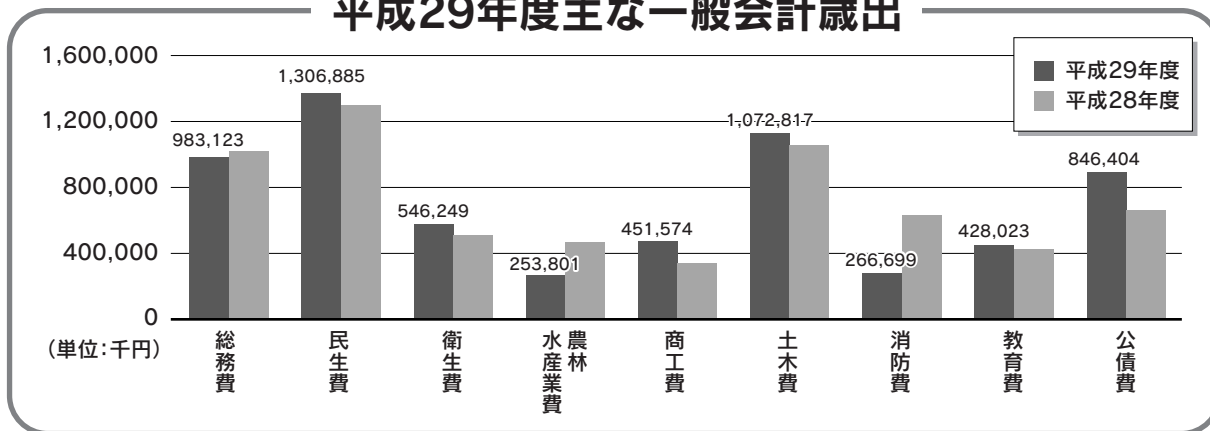
採択

本会議の採決結果

採択

平成29年度決算を認定

平成29年度主な一般会計歳出



■一般会計歳出の概要

小国小学校改築事業費に充てた地方債の元金償還が開始となったことなどから、公債費で前年度比1億7800万円の増額となった。また、道の駅拡充事業、環境型雇用創出産業立地推進事業などにより商工費で前年度比1億1439万円の増額となった。一方、防災情報伝達システムの整備完了に伴い消防費は、前年度と比べて3億6358万円の大幅な減額となった。

主な企業会計

■病院事業会計

	平成29年度 (円)	平成28年度 (円)	比較 (円)
病院事業収益	1,067,543,131	960,962,163	106,580,968
病院事業費用	1,104,516,270	1,097,747,100	6,769,170
収支(収益－費用)	－36,973,139	－136,784,937	99,811,798

医業収益は、入院収益が20.8%の増。外来収益が1.6%の減。費用面では、人件費等は、減っているが光熱費等が増え0.6%の増となった。一般会計負担金は、3億7600万円となり15.7%増となった。

■介護老人保健施設事業会計

	平成29年度 (円)	平成28年度 (円)	比較 (円)
老健施設事業収益	353,121,826	325,555,349	27,566,477
老健施設事業費用	342,032,378	319,297,110	22,735,268
収支(収益－費用)	11,089,448	6,258,239	4,831,209

事業収益は、利用者を維持できたこと、平均介護度が上がった事により約8.5%の増となった。

一般会計負担金は、9862万円となり18.5%の増となった。

ライドシェアの導入に反対し、安全・安心なタクシーを国に求める意見書の提出について(要旨)

利用者の安全・安心に大きな懸念のある業態である「ライドシェア」について、その容認を行わないこと。また、地域公共交通の維持・発展に向けた諸施策を講じるよう要望すること。

請願者
一般社団法人
山形県ハイヤー協会
会長 石川康夫
(山形市)

全国自動車交通
労働組合連合会
山形地方本部
執行委員長
遠藤栄二(山形市)
付託委員会
総務厚生常任委員会
委員会の結果
継続審査
本会議の結果
継続審査

決算審査委員会 特別委員会 質疑 Q & A

決算審査特別委員会

委員長 伊藤重廣
副委員長 間宮尚江

総務企画課

Q 地域振興室管理事業

について、小玉川地区に設置している振興事務所の活動への評価と、それを町内の各地域へどうつなげていく考えか。

A 平成29年に小玉川地区から南部地区全体へ拡大した。既存の事業と新しい事業を組み合わせながら地域づく

りを進めた過程で、道筋は見えてきた。

他地区について、北部地区で広域的に事業を行う視点で、地域おこし協力隊員を配置するなどしている。始めから地域の人たちが事業を行うことは難しい中で、人材配置をしながら、地域で出来ることを試行していき、各地域の課題を見つけてから進めていく。



町民税務課

Q 空白地有償運送実証

運行の利用実績は。

A 平成29年11月の一ヶ月間、北部地区で2台のレンタカーにより実証運行を行った。運行日数は、5日間で運行回数は、20回であった。延べ利用人数は、63名。主な行き先は、自宅からサロンや公民館、「リふれ」であった。

Q そ族昆虫駆除事業の

予算執行率が6・3パーセントなのは何故か。

A その年によってアメリシロ等そ族昆虫の発生状況が異なるので、例年同様の事業量とは限らない。シルバー人材センターに駆除を依頼する仕組みとなっているが、それも含めて広く事業周知を図ってきたい。

地域整備課

Q 小河川整備事業の選

定はどのようにして決めているのか。

A 町が管理する普通河川の整備事業である。地域の状況、住宅の状況によって事業ごとに国・県対応要望の選別を含め現場を確認し対応を考えている。

Q 昨冬は、水不足で大

変であったが、その原因は何であったか。ま

た、新水源地が整備されたが、今冬は、大丈夫か。

A 昨冬については、1月後半の寒波が続いた事が原因であった。今冬については、現在の水量の状況であれば足りると思っている。

産業振興課

Q 移住・定住促進に向

けたピーアール活動はどのような展開をしていくのか。

A 各課の支援制度をパッケージ化するとともに、移住希望者向けに「おぐにつき」というガイドブックを作成した。今後、県外や特に中央都市部への発信に役立てたい。

おぐにつき

山形県小国町移住定住ガイドブック



ゆったり、
おぐに暮らし。

Q サルの被害状況並びに生態調査について現在の状況は。

A 昨年は169頭捕獲した。現段階では、被害報告は減っている。被害防止対策としては、電気柵設置が有効である。専門家の指導を受けながら、雌雄別、大きさ別等、生態調査を今後も行っていく。

Q マタギの郷交流館、水源の郷交流館、金目そばの館のそれぞれの特徴、利用の実績、評判などについて聞きたい。

A 「マタギの郷交流館」については、レストランの利用者数が1001名となっており、地元の鶏卵で作るオムライスや引つ張りうどんが評判になっている。「水源の郷交流館」では地元の産物を使ったメニューを提供しており、そばが中心。利用者数は3593名で小

国さんのわらび粉やそばがきなどを提供している。「金目そばの館」では手打ちそばを提供しており、利用者数は1941名。JR関連の雑誌に載り、11月には渋滞が起きるほど来客があった。

町立病院

Q 療養業務を委託したことによる影響はどうか。

A 受託業者に対し、町内産食材の、より多くの購入と利用をしていただくように療養メニューの作成も含めて取り組んできたが、町内業者からの直接購入が減少した実績となった。

健康福祉課

Q 人工透析患者送迎事業の運行管理委託料について小国タクシーが約

430万円、ALSOCK（アルソック）山形が約920万だが、委託期間が半年間と同じなのに金額が倍になったのはなぜか。

A 冬季節だけ利用を希望される患者さんもいて、その期間の車両を一台増やし対応したため運行回数が増えた。また新委託先の委託期間は準備期間を含めた8月から3月までとなった。

Q 介護職なかま創出事業において、資格取得の実績と、受講者募集の方法はどうなっているか。

A 受講し修了した方は3名で、うち1名は小国高校生であった。町内への就職には結びつかなかったが、初任者研修を受講できる環境をつくることは、今後につながっていくものと考ええる。

募集については「広

報おぐに」に掲載することに加え、小国高校への事業周知などを行った。今後は移住施策との連携を検討していきたい。

教育委員会

Q 学校給食において、アレルギーを持つ児童生徒への献立をどのように作成しているか。

A 毎月作成される献立表を事前に担当者が確認し、加えて食物アレルギーの心配な児童生徒の保護者にも確認していただき対応している。



決算審査特別委員会報告書（要旨）

「白い森まるごとブランド構想推進事業」や「移住定住促進事業」は、人口減少や過疎化の進行における地域創生に向けた取り組みとして評価される。

税収の大幅な伸びを期待することが難しい状況にあつて、各種事業の執行にあたっては、財源の確保に努めるとともに、予算編成の段階から取り組み方法等を考え、効果的、効率的な執行を望む。

平成29年度各会計決算12件については認定すべきものと決したので意見を付し報告する。

1 移住交流やU・I・ターン等の促進を図るため、子育て、教育、住まいや就労などの各種施策を「移住推進連携プログラム」としてパッケージ化し、組織横断的な取り組みや積極的なPR活動が展開された。一方、執行率が低い事業もみられた。執行方法や周知方法等について、さらに工夫し取り組まれない。

2 「町公共施設等総合管理計画・用途別管理計画」において、各施設の管理についての基本的な方針を整理されたが、社会環境の急激な変化を踏まえ、早期に方向性を結論付けるとともに、周辺の環境や安全性を考慮し適正な維持管理を望む。

一般質問

町の考えを問う

9月定例会では、5人の議員が一般質問を行い、2日間にわたり議論を展開しました。

質問と答弁を要約した内容は7ページから11ページです。

なお全文記録（議事録）は小国町議会ホームページに掲載しますのでご覧ください。

スマートフォンからもご覧いただけます

小国町議会

検索

● 小林 嘉議員 7ページ

- 「白い森まるごとブランド構想」と「地域総合商社」について

● 小関和好議員 8ページ

- 高収入品目植樹植栽事業の取組みについて
- 少子化対策について

● 間宮尚江議員 9ページ

- 空き家対策の進捗状況について

● 米野貞雄議員 10ページ

- 車検切れの車を公務に使用した件について

● 石山久美子議員 11ページ

- 障がい児童・生徒への支援について

🔍 一般質問とは

議員が町長などの執行機関に対し行財政全般にわたり、事務の執行状況や将来の方針などについて、所信や疑問をただすこと、あるいは報告や説明を求めることを言います。

本町議会の質問時間は、1人60分以内で、答弁時間を含みます。



白い森まるごとブランド構想と 地域総合商社について

こばやし 小 林
よしみ 嘉 議員

広い分野の構想、
今後の進め方は

小林 「白い森まるごとブランド構想」は、広い分野にわたる構想と認識しているが、現在、何に力点を置いて戦略を組み、それを今後どのように進めていくのか。

「白い森ブランド戦略室」で推進

町長 「白い森まるごとブランド構想」とは本町が有する豊かな自然、生活文化、多様な人材などが生みだす農林水産物や伝統文化、町内企業の生産品や教育、

子育て、福祉、防災などの暮らしやすさという視点を含め、町全体をブランド化するもので、住民満足度の向上と町外における小国町の認知度の向上を図り、地域経済の発展を目指すものである。

昨年四月に「白い森ブランド戦略室」を設置し、白い森おぐにの認知度の向上、町民による自発的な活動への支援、白い森ブランドの商品・サービスの拡充等、組織横断的に取り組んできた。

本年度は、国の地方創生推進交付金を活用し「地域総合商社」の設立に向け、準備を進めている。

地域総合商社とは

小林 地域総合商社は「稼ぐ仕組みづくり」と聞くが、その役割について聞きたい。

小国に合った

「稼ぐ仕組みづくり」

町長 小国町には、優れた地域資源はあるものの、残念ながらマーケットに展開されにくい状況にある。いいものは外から評価されて初めていいものになり「稼ぐ」ことに繋がっていくが、資金力、経験・ノウハウ、時間的制約等から個別の生産者や事業者が強みを発掘し、磨き上げマーケティングし、ブランド化していくには限界がある。地域資源をある程度、包括的・集中的に管理・運営し「稼ぐ仕組み」として設立・運営を目指すものである。

経営戦略責任者は

小林 地域商社の司令塔となる経営責任者に396名の応募があったと聞くが、採用予定者には、どのようなことを期待しているのか。

ビジネスモデルを

検討・策定・実践

町長 事業を実施していくには、企画力、売り込む力、地域を巻き込む力が必要であり、高度な専門性とビジネス経験が必要とすることから、行政だけで行うことは困難である。

このため、検討段階から当該事業に関与し、「地域総合商社」の組織、経営戦略、ビジネスモデルを検討・策定し、それを実践していく方を外部から公募した。

「地域総合商社」の具体的な事業内容は着任後、当町を調査・分析し、町をよく理解したうえで、

おぐに白い森株式会社をはじめとする既存の第三セクターとの関係を含め具体的な組織のあり方や経営戦略、ビジネスモデルを、白紙的に検討していくことになる。

「儲かる」「儲からない」の判断が必要なのは言うまでもないが、経営戦略責任者には、地域総合商社は既存の事業者の事業を奪うという発想ではなく、うまく補完し、スケールメリットを活用し、市場から一円でも多く稼ぐことを期待する。

世界ブランドの

工業製品・製造工場

小林 世界シェア七割を超えるブランド品を持つ、町内中核企業との関係を更に深めていくべき。

町長 中核企業との太い人脈を更に強固にしていく。

●高収入樹木の産業化に対して町の取組みは ●少子化に危機感と早急な対策を望む

こ せき かず よし
小 関 和 好 議員



***高収入品目植樹植栽事業について**

今後の展開と方策は

小関 町では、本年6月に森林資源の利活用と町の活性化として講演会を開催するとともに広葉樹の活用方法を探るため試験的な植樹に取り組んでいる。

また、民間では、クロモジの木を活用した商品化と販売を手掛けている。森林資源の活用は、白い森ブランドの一翼を担う事業として期待されると考える。

民間への支援を含め今後の取り組みを伺う。

森林資源を活かした小国創生に取り組んでいく

町長 町土の約95%が森林である本町において、特用林産を含め多面的な資源利用を検討する必要があると考え、平成28年度より高収入品目植樹植栽事業に取り組んでいる。

また、町内民間団体がクロモジを活用したアロマやハンドクリームの開発・販売に取り組んでいる事は承知しており、担当課には、森林管理署や山形県への情報提供などをサポートするように指示をしている。

高収入品目植樹植栽事業については、広葉樹を活用した森林整備の促進と新たな森林産業づくりにつながるよう引き続き調査研究を進めていく。

民間支援については、今後も国や県の助成制

度の紹介や情報提供に努めていくが、すでに商品化され販売していると聞いているので民間の活力のさらなる発揮に期待している。

***少子化対策について
少子化は危機的状況**

小関 本年6月定例会でも一般質問をしているが、その後の調査で平成30年度の出生見込みは26人であるという。この事は、高校の存続・労働力不足、果ては町の景況にも大きく関係してくると考える。危機感とスピード感を持ち少子化への対策を講ずべきと思うが町長の考えを再度伺う。

**多様な政策を展開し
少子化対策に取り組んでいる**

町長 出生数減少の要因としては、若い世代の人口が減少している事、婚姻数が少ない事など

複合的な要素が重なって生じていると考えられるので、多様な政策を展開し少子化対策に取り組んでいるところである。

6月議会でも仲人のような婚活サポーターの配置について提案をいただいたが、結婚については個人の考え方や価値観に関わる問題であるので現時点では、民間の方々が取り組まれる出会いの場の創出に期待しているところである。

若者の定住促進とUターン・Iターンなど移住による若者の確保や企業の新卒者の確保など実績があがってきているところなので、引き続き、若者の町外流出抑制と転入促進のための取り組みを進めていく。

その他、子育て世代の経済的、精神的な負担の軽減に向け多様な取り組みを展開している。

このような取り組みを着実に進めていく事

により、町全体で子育てを支援する機運が高まり少子化対策につながるものと認識している。

飯豊町57人、関川村35人の出生数

小関 子育てに関しては他町村より恵まれた環境であると認識している。しかしながら今年度8月までの婚姻数は8組である。29年度出生数31人、今年度26人、来年度も期待できないという状況は深刻である。29年度飯豊町では57人、関川村では35人生まれている。子供の存在は、自治体の基本中の基本である。早急に効果的な対策を望む。

***その他の質問
病後児保育について**



空家対策の進捗状況について

間宮尚江議員

空家対策計画策定に向けた検討は

間宮 空家対策推進に関

する特別措置法が制定され、既に3年以上が経過した。本町でも「空き家改修パイロット事業」として具体的施策展開が見られ「関係人口」増加への期待が持てるものと認識できる。

一方、景観・防犯・衛生・冬期間の漏水・倒壊等の問題への早急な対応が喫緊の課題ではないか。昨年度実施された空家実態調査を踏まえて、その後空家対策計画策定に向

けた検討はどのような進捗状況か。

個々の事案に対し適切に対応する

町長 本町でのイベントや地域行事の手伝い等に町外大学生や若者が多く訪れる。「空き家改修パイロット事業」は、お話し滞滞的に空き家をゲストハウスとして活用する試験的事業である。この事業を通じて関係人口の増加、空き家利活用に繋げたい。

昨年度「判定基準等」に基づく調査を実施した結果は、対象件数216件のうち「特定空家」が30件確認された。

特定空家については、居住者不在による地域住民の生活環境に影響を与えかねない状況である。現在所有者、管理者の特定を進めている段階である。個々具体の事案に対し、行政が関与

すべきと判断した場合はその根拠に基づく措置を講ずるか適切に対処していきたい。

冬季間の漏水調査は

間宮 今年の冬、低温の被害とも言える漏水、そこから波及した節水は大きな不安や影響があった。空家の漏水を知った経緯は、目視や音に頼るものであったと聞いている。漏水が発覚したのは8軒ということだが、今年の漏水対策も目視や音だけに頼った調査でいいのか。

今後協議、検討していく

町民税務課長 昨年の段階で閉栓処理を行っていない空家については、担当課である地域整備課に情報提供を行い、降雪前の閉栓手続きを行うよう文書での通知を行うため、協議を行っている。

空き家対策連絡調整会議が必要ではないか

間宮 2015年から県でも積極的に空き家対策で連絡調整会議が発足され、その後各自自治体においても同じような協議会が次々発足している。本町でも早急な対応をすべきではないか。

策定も含め協議検討していく

町民税務課長 協議会を設置しなくても事業の推進は出来る。ある程度の方向性が決まれば、既設の計画等との整合性を図りながら計画の策定も必要だと考えている。

空き家利活用の移住、定住施策での展開は

間宮 施政方針の中で、ゲストハウスの改修は若者の集いの部分で必要性があるとうたっている。

若者だけの交流というよりも世代間を越えた交流、高齢者の方たちの冬季間のゲストハウスという役割があってもいいのではないか。

今後、検討していく

白い森みらい創生監

ゲストハウスの完成後については若者限定の利用ということではなく、広く町内外の方に使って頂くことを想定している。その状況を見ながら、第2、第3とつなげていくかどうか判断していきたい。

幅広い世代対応を

間宮 小さな町の大きなパイロット事業として成功し、いいモデルケースとなることを期待する。

車検切れ公用車使用は 明確な法律違反 町長の判断は

よね の さだ お
米野 貞雄 議員



**車検切れの車使用は
法律違反**

米野 町が車検切れの車を、公務に使用していたと新聞でも報道されたが、車検切れの車で公道を走らせたということは、法律違反ではないか。

私が判断できない

町長 法律違反なのかどうか、違反という観点から言えば色々な違反がある。駐車違反、スピード違反、この場合で言うところ、車検切れの車を運転した違反となるのかと思う。ただ、その違反の中にも確信犯と、たとえば免許が切れていたことを知ら

らないで運転していた場合など、そういった種類がある。ここで私が違反かどうかという判断は出来ない。

**規則に背けば
全て違反**

米野 車検切れの公用車で公道を走ったということとは、その運転手の違反行為であり、知る知らないは別である。走らせたこと自体が違反と思うが、イエスかノーかで答えていただきたい。

その判断は持ち合わせていない

町長 その判断は持ち合わせていないので、担当の方で承知しているのであれば、担当の方から答えさせる。

総務企画課長 この度の事案は、車検切れであった事実は事実であるのでこの場でもお詫び申し上げるが、発見に至った経

緯についてはご理解いただきたい。

**公用車の車検切れについて
は国も事態を重視**

米野 端的に答えていただけない。千葉県八千代市では、書類送検までしている。国も事態を重視という記載もある。それには「車検切れの車の走行は法律違反」であり、車検制度を所管する国土交通省自動車整備局は「公用車による法律違反はあってはならない。うっかりして車検切れに、ということのないようにしっかりと管理を」と言っているが、町長は、法律違反を犯してしまいました、という言葉が出ないのか、お聞きする。

**私が謝罪すると收拾
がつかなくなる**

町長 経緯、謝罪については総務課長、担当である副町長が謝罪している。

当然私としても、管理する者としてそういった事態があったことは申し訳ない、そういう形はある。ただ、懲戒処分審査会で決めたことについて、私がいろんなことを飛び越して謝罪するということになると、これは收拾がつかないので、そういったルールの中で私としては判断している。

**小国町の信用失墜
の責任はどうする**

米野 この度の事案は、私は法律違反だと主張したが、町長は遺憾なこと

だという認識にとどまっている。いずれにしても小国町の信用を失墜させたということに変わりはない。このように不名誉なことをしたことにについて、最高責任者である町長は、誠意ある責任をとるべきと考えるが、町長にその考えはあるのか。

**事案ごとに十分検討
する**

町長 事案ごとに検討していかなければいけないということだと思うので、十分検討させていただく。

公用車の管理について

町で所有する公用車	総務企画課で管理	15台
	各課で管理	118台
	合計	133台

公用車については、総務企画課で管理するもの、消防車両や除雪に使用する重機械など、担当課で管理するものがある。



障がい児童・生徒への 支援策について

いしやま くみ こ
石山久美子 議員

学校卒業後の支援は

石山 障がいを持って授

業に臨んでいる児童生徒は学校のサポートを受け、進学を目指している。県立米沢養護学校へ進学を希望する場合、これまでは同校の寄宿舎を利用していましたが、学区制度で新たに県立長井工業高等学校内に米沢養護学校西置賜校が開設されたため、長井市へ通学することになる。さらに寄宿舎が廃止となれば保護者は学校までの通学が大きな課題になる。支援策は。

西置賜校は通学の負担軽減、保護者の不安解消がねらい

町長 県立米沢養護学校

西置賜校については、高等部の生徒の通学への負担軽減、保護者の不安解消に向け西置賜地域における特別支援学校として平成29年4月に開設されたと承知している。西置賜地域在住の生徒が通学することになる。

また、本年度末に寄宿舎が廃止されとの情報 は正式に決定したものであるとは聞いていない。

安全な通学ができない

石山 町外へ汽車通学となれば途中の乗りかえは大丈夫か、無事に学校まで到着できるか、トラブルに巻き込まれないかと保護者の不安や心配が尽きない。

保護者が車で送迎となれば負担が大きい。支援はないのか。

現在通学支援制度はない

町長 本町出身の生徒が

米沢養護学校で学ぶ場合、これまで寄宿舎の利用が想定されたこと、さらに



米沢養護学校西置賜校
(県立長井工業高等学校2階の様子)

西置賜校に入学する生徒がいなかったことから、現在通学を前提とした支援制度はない。

これまでも養護学校への通学支援という制度はなく、他の高等教育機関への入学と同様の取り扱いである。

障がいのある子も健常者もみな小国の子供、進学支援の制度はないのか

石山 障がいのある子の人数は少なく、声が上げられずにいる。

不安を抱えながら行き場のない思いでいる。共働きの両親、祖父母との同居ではないため、保護者が送迎するとなれば西置賜校近くへ転居し、親が小国町へ通勤することを考えている方もいる。経済的にも負担が増すことになり、支援策はないのか。

「特別支援教育就学奨励費」の補助がある

町長 障がいのある生徒

が特別支援学校で学ぶ際に保護者が負担する教育関係経費について、家庭の経済状況等に応じて国及び地方公共団体が補助するものがある。この奨励費の対象となる経費は通学費、給食費、教科書費、学用品費、修学旅行費、寄宿舎用品費等である。

県立米沢養護学校西置賜校への進学の場合はこの事業の実施主体は山形県となる。

西置賜校の開設により今後、生徒が進学を希望することを想定し、支援の在り方について検討したい。ただ、小国町のおかれている立地特性からすると、学校までの距離など、他と同じような支援が可能かどうか、他の高等教育との兼ね合いなどを含め、十分な調査分析が必要であると考えている。

高校生議会

3名の高校生が一般質問形式で堂々と町に対する要望を発言し町長に答弁を求めました。

小国町芸術ホールの建設を

小国高校3年

齋藤紫吹議員

質問内容（要約）

数年前に実施されたアンケート（※）で不満が顕著な項目のうち、「芸術・文化に触れる機会や場所」に注目すると、町内にこうした施設はほとんどない。



齋藤議員

200〜300人程度収容の小さなものでもいいので、映画や演劇などを鑑賞できるホールを作ってはどうか。

使い方の一例としては、首都圏の小さな劇団に練習場所として貸し出し、最後の一週間は町民に無料で演劇鑑賞させるなどが考えられる。そのついでに、劇団に小国の良さを体感して帰ってもらえば、様々な人たちの町への出入りも活発になるのではないかと。

※アンケート

平成27年5月町が中学生以上の全町民を対象として実施したもの。

町長答弁（要約）

現在単独の施設として整備されているものはない。同様の機能を持つものとしては、小国小学校の体育館や総合センターが挙げられるほか、廃校校舎の活用も考えられる。新たなまちづくりの拠点として、現在、新しい総合センターの整備に向け、段階的に準備を進めている。

提案のあった文化ホールの機能などを含めて検討し、財源確保にも努めたい。

齋藤紫吹議員のしなやかな発想力を今後もお寄せくださるようお願いしたい。

感想 齋藤議員

本番はとても緊張したが、提案をしっかりと伝えることが出来た。
また、小国町をもっと知っていく必要があると思った。高校生のときに貴重な体験が出来た。

大きなイベントを町全体で開催を

小国高校3年

八幡電馬議員
奥村広之議員

質問内容（要約）

小国町の強みを生かした、大きなイベントを町全体で開催してはどうか。季節に合ったイベントを定期的にを行い、そのなかで小国町のお酒や食材を使っておもてなしを行えば、町は活気付くと思う。アイデアは小国高生にアンケートを取っても面白いものができると思う。さらに、本気になって

感想 八幡議員

質問を考えることを通して町のことを学んだり、充実した時間を過ごせた。考える、話し合う、意見をする、貴重な体験だった。

感想 奥村議員

とても緊張した。班別意見交換会では皆が町に対する意見を言えてよかった。高校生活でとても印象深い体験になった。

宣伝することでも必要で、有名人や若者に人気があるユーチューバーなどに企画を依頼する方法もある。町民手作りの、自然

を生かしたイベントを町全体で行うことが、多くの人を小国町に呼び寄せ、町を活気付けることになるのではないかと。

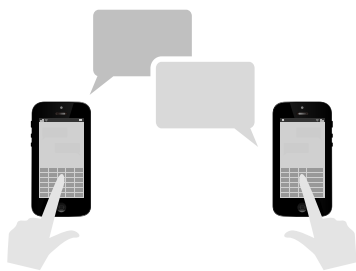


左：八幡議員 右：奥村議員

町長答弁（要約）

小国町には町外に誇れる地域資源がたくさんあるので、それらを町外に広く発信し、評価してもらうことが大事だと考えている。

そこで、今「おくにまるとブランド化構想」を進めており、その中で提案のあったようなイベントや、SNS等を活用した宣伝にも取り組みたい。お2人の議員には本日のために友と力を合わせ小国の将来について考えたことを忘れずに、いつの日か小国で皆が輝いてわくわくする町づくりに参加していただけることを期待したい。



議員交え3グループで意見交換会

一般質問終了後は3年生全員と議会議員との意見交換会を行いました。

意見交換会のテーマ

Aグループ

「小国町にほしいもの」

B・Cグループ

「小国町には何もないのか」



意見交換会で

出された主な意見

●高齢の方が集まって話せる場所がほしいという声がある。アスモがあるが、アスモに行くにも遠く、行っても同じメンバーになる。行きやすい場所に公園や子どもから大人まで遊べる場所があれば嬉しいの場にもなり、いいと思う。

●カフェやカラオケなど、若者の行ける場所がほしい。



●若者が遊べるスポーツがない。夜開いていて若者が集まれるおしやれなカフェがほしい。

●本格的にスポーツをする場所というよりは遊び場として、アスレチックのような身体を動かせる場所がほしい。

●イベントを増やしてほしい。若い人が企画し、SNS等を利用して発信すればいいと思う。そこに県内出身の有名人を呼んでほしい。

意見交換会後の高校生からの声

グループの話し合いでは、小国町の課題についても考え、自分に出来る事や町、地域に貢献できることを見つめ、実践していきたいと思った。



様々な話を話せた貴重な時間だった。卒業後地元を離れるが、小国というすばらしい町が今よりいい町になることを願う。

小国を知っているようでまだまだ知らないことがあることに気づいた。議員の方々との交流で小国の良さを教えてもらい、充実した時間だった。

いい緊張感もあったし、自分の考えを小国町の現状と比較しながら可能なアイデアかどうか話し合えた。

高校生では体験することの出来ない議会でも、有意義な時間を過ごせた。議会の進行を知ることが出来て、とてもいい経験だった。

議会活性化に向け先進地へ

7月3日(火)
長野県飯綱町

人口 1万1570人

議員定数 15人

研修テーマ

議会改革と政策サポート制度について

飯綱町議会は、「学ぶ議会」と「議員の自由討議」を柱に議会改革を推進し、その目覚ましい成果で地方議会関係者から高く評価されている。

飯綱町は、「平成の大合併」により牟礼村・三水村の合併により誕生した。合併当時、各村が問題を抱えており議会の活性化を進めざるを得ない状況から当時の議長を中心に議会改革に取り組んだという事である。信頼される議会を目指し「政策サポート制度」を導入し町民参加型の議会を目指し懇談会等に精力的に取り組んでいる。



飯綱町役場内



新潟市役所内

7月4日(水)
新潟県新潟市

人口 81万157人

議員定数 51人

研修テーマ

議会活動及び議会報告会について

新潟市議会は、「開かれた議会」を目指し、議会活動に関する情報を市民と共有し、市民参画を推進するために

議会報告会を開催することを決定し市内全8区で報告会を開催している。その他、大学生・PTA等に向けてテーマを絞り報告会を行うなど積極的に市民参加を呼び掛けている。

報告会内容としては
1、定例会で審議された内容の概要報告
2、市民との意見交換という事であった。

今後の課題としては、次の3点が述べられた。
1、市民からの意見等をどのように活かしていくか。
2、報告会当日での意見に対しての答弁の内容。
3、より多くの方が参加できる開催形態。

研修を終えて

自治体の大きさに関わらず、住民の考えをどのように行政側へ届け、政策へ反映させるか、今まで以上に議会への視線は厳しさを増している。

住民意見を的確に把握し、議員間で十分な議論を行い、議会としての行動に繋げる取り組みの重要性を再認識した。

文教産建常任委員会

所管事務調査

期間 平成30年6月～9月

6月27日(産業振興課)

● 白い森まるごとブランド構想推進事業について

● いきいき街づくり公社支援事業について 他

8月16日(教育委員会)

● 小国小・小国中学校校舎の安全対策について

8月23日(産業振興課) (地域整備課)

● 道の駅直売所の整備について

● コロラド州訪問について

● 高温少雨による農作物の被害状況について

● 渇水による水道の状況について 他

その他
地域総合商社設立に向けた進捗状況について、経営戦略責任者の公募状況などの説明を受けた。

道の駅直売所の整備については、用地の取得、直売所建設のスケジュールについて報告を受けた。

8月16日、昨年小国中学校内で発生した転落事故を受けての安全対策について、小国小学校、小国中学校で現地確認を行った。

小国中では転落防止ネットおよび手すりの滑り止め設置、小国小では正面玄関の階段踊り場に設置されている落下防止柵の高さを上げる等、対策が行われたことを確認した。



小国中学校



小国小学校

西置賜行政組合議会 行政視察

参加者(組合議員) 今 康成・間宮 尚江
石山久美子

日時 平成30年8月1日～2日

視察先1

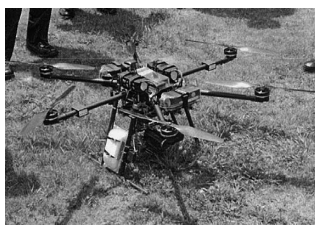
宇都宮市「養護老人ホーム アオーラ而今」

組合が運営する養護老人ホームが今後民営化されるため、同様規模で介護保険サービスが利用できる先進的な取り組みをしている事業者の視察を行った。

視察先2

千葉市消防局 千葉市消防総合センター

自然災害や大規模火災等における情報収集での活躍が期待される「ドローン(無人航空機)」運用の説明を受け、実地訓練を視察した。



総務厚生常任委員会

所管事務調査

期間 平成30年6月～9月

8月10日(町立病院)

● 「新小国町立病院改革プラン」の取り組み状況について

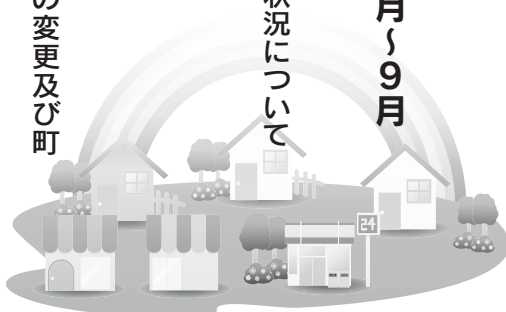
8月22日(健康福祉課)

● 健康増進計画の策定について

9月12日(町立病院)

● 町立病院診療体制の変更について

町立病院の内科医1名減に伴う診療体制の変更及び町民への周知方法等について説明を受けた。



おらも おぐに町民

町の人から
ちょっとひとこと

ゲ台の9本の棒に9つの輪がピタリと納まった瞬間がたまりません。

Q 和やかに練習されていますが、結束力はどこからきていますか。

A 男性も女性も入り混じって、より多く得点するためのアドバイスや一投ごとに得点を数えて、一喜一憂しながらの練習です。さらには、お茶をいただき、お菓子を食べながら「和気あいあい」で集まっています。

Q 替え歌があるそうですね。

A ご披露します。「ワナゲの輪のように丸くなり いつも笑顔の八木沢会 腰は曲がるし白髪はえ これが我らの勲章さ」(炭坑節の曲で)

Q 10月12日(金)にワナゲ大会が行われます。一回戦では優勝経験豊富な亀鶴会(きかくかい)との対戦ですが、意気込みはいかがですか。

A 頑張ります。本町会館で練習をしています。その緊張感は「ハンパない」です。

このワナゲは他と競うものではありません。平常心でひたむきにワナゲ投げ台に向かい、1チーム5名が最高の投げをして、一回戦を突破したいです。

Q 小国町議会へ一言お願いします。

A 八木沢会の仲間も高



なかなか思い通りに入りません、
白熱する練習風景

齢になり、町外の施設へ入所している方がいます。町内に施設があれば会いに行けるのにと思っています。また、「議会だより」はおぐに広報と違って、これまでよく読みましたが、議員が実際に取材したり、写真を撮ったりして記事を作ることが分かりました。ご苦労様です。

編集後記

暑い暑い7月、8月を過ぎ、爽やかな10月を迎えました。

今回はワナゲ大会に向けて練習に励む地域の皆様にお話を伺いました。

「人口が減少し、子供の声もなかなか聞けない、さみしいです。」と話されましたが、ワナゲの練習では晴れ舞台に立つアスリートのように頼もしく、若返っていました。

この「議会だより」が町民の皆様にも届くころには大会も終わり、秋晴れの結果が報告できるように祈ります。

石山(記)

発行責任者

議長 高野 健人
議会広報特別委員会

委員長 小関 和好
副委員長 今 康成
委員 石山久美子
間宮 尚江

次は12月定例会です。傍聴においでください。
議会に対してのご質問、ご意見をお寄せください。

議会事務局(62)2448

Q ワナゲの魅力はどこですか。
A 300点の満点めったに出ませんが、ワナ



ワナゲ大会に向け練習に励む小国小坂町の本町八木沢会の皆さんにお聞きしました。